

大阪万博決定

2025年開催

55年ぶり2回目

三つともえ 投票制す

【パリ共同＝恩田将成、副島衣緒里】2025年国際博覧会（万博）の開催国を決める博覧会国際事務局（BIE）総会が23日（日本時間同）、パリで開かれ、加盟国による無記名投票で大阪市を候補地とする日本が選ばれた。ロシアとアゼルバイジャンを破った。大阪開催は1970年以来で55年ぶり2回目。国内では2005年の愛知以来20年ぶり。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに健康、医療に関する技術貢献を目指す。



2025年万博の開催国を決めるBIE総会の最終プレゼンテーションで、壇上で手を振る日本の誘致委員会メンバーら。左端は松井一郎大阪府知事＝23日、パリ（共同）

日本の誘致委員会によると、大阪湾に浮かぶ人工島・夢洲内の155畝を会場に、25年5月3日～11月3日の185日間開催する計画。屋根付きの大広場「空」を5カ所設け、人工知能（AI）や拡張現実（AR）などの先端技術を駆使した展示が検討されている。2800万人の来場を想定、2兆円の経済波及効果を見込む。

ロシアは中部の都市エカテリンブルク、アゼルバイジャンは首都バクーを候補地とし、総会では日本を含めた3カ国が最終プレゼンテーションを実施した。日本は世耕弘成経済産業相が登壇し「大阪の万博は、世界をつなげるための最高の実験場になる」とスピーチ。ゲームキャラクター「ピカチュウ」が夢洲を案内する動画や、安倍晋三首相

が「大阪、関西はみなさんをもてなす準備ができています」と話すメッセージも放映された。



国際博覧会 1928年締結の国際博覧会条約に基づき、パリに本部がある博覧会国際事務局（BIE）に承認された博覧会。万博（万国博覧会）とも呼ばれる。日本開催は1970年の大阪万博、2005年の愛知万博などがある。25年は大阪のほか、ロシア（エカテリンブルク）とアゼルバイジャン（バクー）が立候補し、三つともえの誘致合戦を繰り広げた。日本は「いのち輝く未来社会のデザイン」を基本テーマとし、大阪市の人工島・夢洲を会場にする計画。（パリ共同）